

平成16年度岩手県工業技術研究推進会議 生産技術部会議事録	(実施日) 平成16年10月29日(金)
----------------------------------	-------------------------

総 評

A委員	<p>長くこの委員会に出席させていただいているが、開発成果の実用化に関して、所長の「売れて何ば」の精神が浸透してきており、最初のころと比較すると非常に良くなっていると思う。研究成果を生かすためには、早めの市場調査とマーケティングが重要で、その意味からも企画部門が主導するテーマがもっと多くなると良い。従来のように研究員提案のテーマだと、研究員の得意分野の周辺のテーマだけになり、売れて何ばには成り難い。それよりは、真のニーズベースのテーマを、所長をトップとする企画室主導で決めればその方が売れる製品が作れるのではないか。その際、研究員の狭い専門では対処できないでしょうが、専門をもっと広くとってやる習慣づけが必要である。企業の研究所では、常にそれをして新製品を開発している。その場合、論文にはならないかもしれないが、論文はあくまでもパイプロダクトである。</p>
B委員	<p>バイオマスストーブ等、研究員の専門とはかけ離れた領域についても、グループでうまく対応している点は評価できる。一つのことを20年30年かけてやっている大学の先生と違って、社会のニーズにフレキシブルに対応する姿勢は、これからのセンター研究員にとって特に重要な資質であるかもしれない。それとは別に、センターが長い年月にわたって蓄積した知識をうまく活用して、部と部の横断的交流研究など、新しい取り組みに期待する。私は、センターの多くのテーマに何らかの形で関与しており、これからもセンター・大学両方に良い成果が得られるような、ものづくりのための共同研究を提案していきたい。</p>
C委員	<p>会議の冒頭に所長がプレゼンされた研究テーマ件数の推移は、欲を言えばその中の事業化件数または企業の役に立ったものがいくつあったか教えていただければもっと説得力があった。研究員の工数には限界があることから、何らかの評価基準による選択と集中が必要で、テーマ数を減らしても内容の更なる充実が必要ではないかと感じた。前にも言ったと思うが、事後の報告では、目標に対する達成度をもう少し明確にした内容にしてもらえば、さらにわかりやすかったと思う。</p>
D委員	<p>新しい課題を民間と共同のテーマとしてとり挙げるやり方は、成果をより充実させる意味で好ましい。その場合に、企業とセンターの協力の仕方をわきまえることや、産業振興センター等との連携を密にして企業に対応してほしい。岩手発ということの重要性について、もっとわかりやすく民間に落とし、さらに積極的に進めてほしい。</p>
E委員	<p>大学や企業のシーズも良いが、センター研究員からのシーズが少ない。チップボイラーなどバイオマス関係では、非常に短時間でプロトタイプを試作するなど、実用化の速さは評価に値する。ZnO等のテーマでも、企業のシーズだけでなく、工業技術センター独自のアイデアが出されれば特許料の収入などが期待できてよい。北海道稚内では、珪藻土に関連したアイデアだけの特許で、特許料収入が年間1,000万円ある。</p>
F委員	<p>予算が少ない中、民間のニーズを汲んで行っている共同開発等については良いと思ったが、研究テーマについては、センター独自のテーマや、特殊なものがあっても良いように思った。研究テーマ数は研究員の人数の割には多い感じがした。集中的に共同で行うテーマがもっとあっても良いと思う。酸化亜鉛関連の研究についても人数が少ないのもっと集中した方が良いと思う。研究費が厳しい中、がんばって欲しい。</p>
G委員	<p>事前評価の説明については、背景、ニーズ等の説明が昨年度に比べて良くなったと思う。これは背景等の調査や検討が充実してきたからであると思う。中間評価については様々な事項を数字でとらえており、研究の進捗が着実に実現している印象を受けた。事後評価については終了後に、次の施策に引き継がれており、たとえばUDに関する研究も、次の市場化支援に受け継がれており、好ましい方法だと思う。全体としては、単独の部で行っている印象が強いが、部を超えた横断的なものである方が良いと思われるものもあった。チームのあり方、構成を充実すると良いと思った。</p>
H委員	<p>デザインに関して述べるが、市場化支援は企業と行政の役割の分担も必要かもしれないが、支援が必要な場合が多い。この点については新たな行政の支援の方法を考えるべきだと思う。漆については、標題に「簡易」という言葉が使われているが、「簡易」という表現は適切でない。まぜものをしなといった方向で実施するのだから簡易ではないだろう。ネーミングは重要だと思う。外部につなげる場合は、市場化支援についても同じだが、ネーミングをもっと考慮すべきだと思う。</p>
所 長	<p>グループ制でスピードアップを図りながら、選択と集中をより進めていきたい。今回の発表も出張で不在の担当者の分をグループでカバーした。過去の研究蓄積と活用等ロードマップも現在検討中で、部間の連携にうまくつなげていく。「簡易」という言葉の使い方については気がつかなかったので今後検討する。</p> <p>(補足)事業化件数については、今年度は事後評価3テーマ中、2テーマが事業化済みである。</p>